

施設介護実習を終えて

生活福祉科介護福祉専攻

青木 君代

京都短期大学生生活福祉科介護専攻は平成9年4月より介護福祉士養成施設として厚生省の認可を得て定員40名で発足し京都北部では唯一の養成校となりました。

開学当初該当する施設がなく遠く丹後町、京北町、丹波町、但東町、和田山町、舞鶴市等の諸施設の承諾を得ました。その内訳は17施設中2施設が身体障害者療護施設で他の15施設は特別養護老人ホームです。

実習先が遠方の上、交通の便が悪く実習前後の送迎は学校がバスや自動車を用意し実施し、実習期間中は全員宿泊を前提としています。実習施設への巡回指導は週2回と義務付けられており、教員全員がその任に当たります。又学生の配置メンバーに於いても教員全員の合意の基に決定しています。

巡回指導は一学生に約30分とし個別指導を重視したきめ細かな指導と共に実習担当者との情報交換は欠かせないものであり、又中間、最終カンファレンスにも参加し、学生の実習状況のチェックと諸問題の解決や学生の実習目標の達成を目指し助言を行い、実践内容を通して介



受理：2004年1月16日(成美学会)

護の本質を理解すると共に学生自身が学びを深めればと願っています。

施設実習のカリキュラムは 450 時間で第一段階実習 90 時間、第二、第三段階実習を各 180 時間とし各段階実習前に事前研修を一日実施し実習終了後二日間を報告会としています。

平成 15 年度の第三段階の報告会はさる 12 月 21, 22 日の 2 日間に亘って実施しました。

報告会の出席には 1, 2 回生は勿論のこと、学長先生をはじめ、教職員や卒業生その他福知山市連合婦人会長様初め社会教育相談担当の方がた等多くの出席があり、発表する学生達にとっては緊張の中にも意義深い報告会になったと思います。

特に第三段階の実習目標は、施設介護実習の総まとめとして位置づけ日常生活援助技術を高め、施設運営のプログラムにも参加し、処遇全般について理解すると共に、個別介護過程の展開が出来るようになるとしています。

報告会で発表する 2 回生は受け持ち利用者の介護過程の展開を実習終了後の 12 月 8 日より約 2 週間夜遅くまでまとめに向けて学習を行ってきました。

発表前日はあいにく大雪でしたが、当日は雪も止み明るい日差しが見られ天候も回復しました。

学生一人の発表時間は約 10 分とし質疑応答を含めて 20 分位かかる学生もいました。発表内容は個別介護過程の展開とし担当利用者の情報収集、問題点、目標設定、計画立案、実施、結果、評価、考察、変更修正と一連の過程を体験学習したものでした。

学生達は様々な障害を持った利用者との関わりの中で、対人関係に於いて一番大切なコミュニケーションで躓いたもの、又情報収集（利用者の認識レベル）が不十分の為、計画変更を止む無くしなければならない場面等、又利用者が体調を崩されてしまって目標そのものを変更しなければならない等、学生たちは何度か挫折しそうになりながらも、ここで挫けては駄目だと気持ちを入れ替えたり、又学内での学習を繰り返し行う事で、利用者との関わり的重要性を学び取ることが出来たように思います。又宿泊前提としている事により、学生間での助け合いや意見交換等グループでの学習効果も高められたといった面もありました。

介護展開内容の浅い学生の場合は実習終了後の学習により反省を踏まえながら考察をする事で、介護の原点や原則、介護理念といった面で再認識でき、専門職者としての自分自身の意

レクリエーション表

Sさんの反応	私の動き	状態	レクリエーションメニュー	時間の長さ		痛み
				準備時間	実行時間	
一週目 散歩の様子もかわらず、「痛い、痛い。」と言いつつ歩かれています。足の角度を聞いている時の様子は、私の質問にも種やかた答えて下さった。	下肢の可動域となる座位時と立位時の、膝の角度を調べ、Sさんと一緒にできるレクリエーションは何かを探る。	😊	コミュニケーションを図り、軽微な足踏み運動をして頂く。	135	90'	135
		😞				
		😞				
		😊				
		😞				
二週目 2週目の初め、他の利用者さんと一緒にボール遊びをして頂けたが、以後、興奮状態の日が続き、「家を焚きやしたろうか。」「後は死ぬしかないんや。」等の発言があった。	座って行えるボール遊びを考へ、Sさんと一緒にボール遊びをして頂けませんか?と誘いかけた。興奮時の対応がしっかり行えなかった。	😞	足はボールをささみ、動作を上下させる。	135	90'	135
		😊				
		😊				
		😞				
		😊				
三週目 3週目の初めは、とても興奮されていて、他の利用者さんとうるさく振るおろされ、ボール遊びは週の中ごろから、徐々に参加され、継続して行っておられた。	興奮の原因を知る為、観察に力を入れ、Sさんがストレスを溜めない様に、Sさんの身の廻りのトラブルを少しずつ解消した。ボール遊びの誘いが、15 時頃と決め、行った。	😞	2週目と同様	135	90'	135
		😊				
		😊				
		😊				
		😊				

😊 良い 😊 普通 😞 やや悪い 😞 悪い

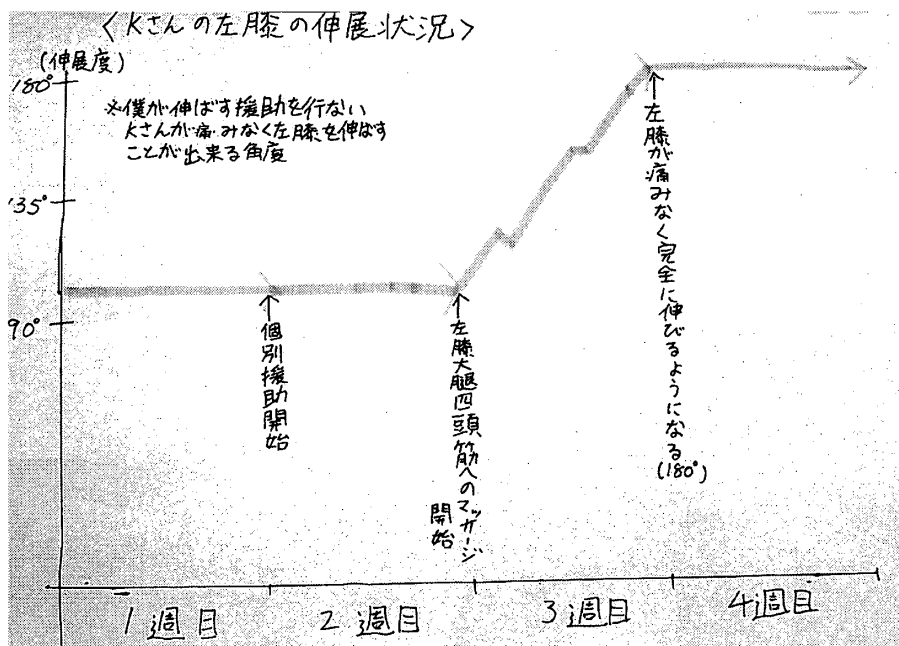
識付けに繋がったと考えます。今回の発表の中で受け持ち利用者に対して行った援助内容が多かったのは一位が残存能力の維持と回復で、二位がカレンダー作り、三位が自助具の考案となっておりその他徘徊される利用者への対応や手芸、縫い物等でした。

これらの介護過程の展開する中で援助を通して利用者の生活の質を高めるものとなったり、生きる喜びや趣味活動の拡大に繋がりは生活行動の拡大となり、社会参加への意欲が図られる結果になったと考えます。

参加した1回生は2日間、2回生の発表を熱心に聴講してその感想として、実習報告を発表し人に伝える事の難しさや、来年はこの場で自分が立ち発表出来るように努力しなければならないという焦りと不安があるがそれは自分自身の勉強不足であることの認識出来たとか、又発表を聞く事でとても勉強になり実習に対しての考えがガラッと変わり先輩達のアドバイスを下に頑張りたい等レポートしていました。

又学外からの出席者の方々より「僅か2年間の学習で大きく成長され、厳しい指導の下で充実した教育を受けておられる事に感動しました」とお言葉を頂いたり又高齢者としっかり寄り添いながら共感することが何よりも信頼関係を築く上で大切で、又社会教育指導の中でも高齢者の生きがい作りに於いても重要であることを話されました。

介護基礎教育が科学的思考を基盤とした実践力である事から、この報告会を通して学生は苦しみ、悩みながらも介護とは何か、介護の理念とは何か、利用者と関わる事の意義や実践を通して介護者としての役割を改めて認識出来る等、多くの事柄を実証する事が出来たのではないかと考えます。



介護というものが福祉、保健、医療全般に亘る広い視野と何よりもチームケアの重要性と各専門分野の職種が常に専門性を身につけ、豊かな人間性を持つことでより利用者のニーズにあった援助となり生活の質の向上に繋がる事を学びとったと考えます。

この学びを深めるに当たり各施設長様はじめ、指導者、職員の方々、利用者の方々に計り知れない暖かい指導とご援助を頂きましたことに対しまして心よりお礼を申し上げます。本当に有難うございました。学生たちも今回の施設実習での学びの中で多くの感動を得ると共に、少しずつではありますがやれば出来るという自信と、又反面まだまだ学習が浅い事も痛感するなど、専門職者としての厳しさを実感しました。

報告会でのまとめに於いて、私自身学生と関わる中で学生の介護に対しての熱い情熱と強い誇りと意志を肌で感じたり、又学生の柔軟な思考力を知り、学生と共に共感したり、学習機会を共有出来たことは、学生とのふれあいが学生の心の豊かさの充実に果たしているのではないかと思います。

これらの若いエネルギーを今後の福祉の中で大いに活かしそして深めて行って欲しいです。そして介護福祉士としての誇りを忘れず自分の求める福祉の理想像に向けて挑戦し続けて行って欲しいと願っています。

高齢社会が進む中で、介護への期待は大きくなって行きます。これらの社会ニーズに応えるべき、各養成校、実習現場、介護福祉士養成協会、介護福祉士会、厚生労働省等関係機関の共通の認識と理解が重要であり、その為の努力を惜しまず人材育成に心血を注がねばなりません。

そして介護は実践の科学と言われ、実践から学問が出発することから、施設の実習担当者の充足や、研修、人権費用の手配、施設内での指導者としての身分保障など、国の政策の中で早急に充実して頂きたいと念願すると共に、現場にいる私達が自ら声を上げていく必要性を痛感しています。